

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1191300027		
法人名	株式会社和み		
事業所名	グループホーム和み伊奈		
所在地	埼玉県北足立郡伊奈町小室5310-2		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町村受理日	平成27年 5月 7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療との密の連携を図ることが出来るため、医療依存の比較的高い方も安心して入居できます。</li> <li>・リハビリ専門スタッフの指導をスタッフが受け、入居者と一緒に日常リハビリを行います。</li> <li>・入居者様お一人おひとりの想い・願い・生活史を尊重し、『その人らしく』生活して頂けるようスタッフが丸となって応援していきます。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.nagomi-kaigo.jp/">http://www.nagomi-kaigo.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成 27年 4月 10日

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当事業所は自然に囲まれた閑静な住宅街に立地しており、平屋造りの建物は近隣の景観にとけこんでいる。利用者一人ひとりへの個別の対応がきめ細やかに行われており、職員が自ら利用したいと思うような施設を目指して実践に励んでいる。利用者の家族、友人との関係を大切にして来訪を歓迎し、できる限りの支援を行っている。家族からの連絡を24時間受け付けており、医療面も緊急対応が確保されている。管理者と職員は何でも話し合える風通しの良い働き易い環境の中で、利用者と職員が共に幸せを追求できるように努めている。現在、隣接地に農園を作り、地域の方々に自由に利用してもらう計画がある。畑仕事を通じて利用者や地域の方々とのコミュニケーションの中で、地域密着型施設に対する理解を深め、より一層の交流をはかりたいと考えている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が望む生活を送れる様に環境を整える。 地域と密着した活動を活発化し交流から風通しの良い施設を実践している。	利用者に対して思いやりのある気持ちで接することを理念に掲げている。職員は理念の実践を通して、自身の幸せを追求することができるように利用者一人ひとりに対してきめ細かい支援に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・祭り行事等への参加 ・地域ボランティア「オカリナ」会様の演奏会を毎月実施している。 ・地域の周辺に季節感ある花などを植え地域の景観を大切にしている。	自治会に入会し、散歩時にゴミ拾いをしたり、町のお祭りを見に行ったりと、地域にとけ込んでいる。オカリナやハンドマッサージのボランティアを受け入れている。レクの内容を充実させ、明るい雰囲気となった。	隣接地に農園を作り近隣の方々に利用してもらい、利用者とのコミュニケーションを通じて理解と交流を深めたいと計画している。早期に実現することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアで野菜を作り季節ごとに少しではありますが、ご近所へのおすそ分けしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	忙しく中々ご来設頂けないご家族様へ毎月一回「和み通信」A3版の新聞を作り、日々の生活ぶりを紹介し郵送している	2か月に1回、家族代表、役場職員、社協職員の参加を得て開催されている。話し合われた課題については、速やかに職員全員で研修、周知をし、利用者本位のケアの実践に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域福祉関係者や市町村関係者が集まるケアマネ会に参加し意見の交換や交流を図っている。	書類の提出など直接役所に出向き、意見交換を行っている。役所からの連絡は、郵送だけでなく、決定通知書を直接持って来てくれるなど、町役場との連携は密に行われ、良好な関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の尊厳を守るため身体拘束や虐待に関する研修を実施し職員の知識向上と認識の統一を図っている。	玄関の施錠は安全の為、夕方以降のみ行っている。利用者自由に過ごして貰えるように配慮し、常に丁寧な言葉遣いと時間をかけての誘導を行っている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく、身体的・精神的・ネグレスト・性的・経済的な五つの虐待の理解をし虐待が無い様、小さなことでも見逃さない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状の入居者様で行ったケースあり、利用者様の姪・弁護士・医師・社会福祉協議会・施設管理者・ケアマネージャーの支援のもと成年後見制度を利用しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	24時間対応でのお問い合わせの受付から施設見学のご案内、パンフレットや料金の説明等、ご利用者様やご家族様が納得のいくまでご説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様等の意見、ご要望には迅速な対応に努め、利用者様の各々の主張を尊重し反映させていただいております。又、『運営推進会議』・『利用者状況報告書』に御意見返信用紙及び封筒を添付し意見の聴取しております。	職員は利用者の声をよく聞いて気持ちをくみ取る努力をしている。家族や友人の面会が多く、意見や要望は、イベント等に活かされている。家族からの電話連絡には24時間対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回職員会議を実施し職員の意見を積極的に取り上げています。	管理者は職員にミーティング時以外にも日常的に自由に発言してもらっている。理念の周知及び介護方針を統一して働きやすい環境を共有し、職員の意見を事業所の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的に現場を見回り職員との会話をする時間を作っています。また、現場からの意見を取り入れ職場の備品の購入など環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTのみならずOFFJTを積極的に取り入れ職場の知識向上を図っています。また、訪問診療、訪問歯科の医師等から医療上の指導を受けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同事業者等の合同勉強会等、積極的に参加し意見の交換や交流を持っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様との対話を通じ小さな意見や要望を見逃さない様な交流(コミュニケーション)を心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様へ積極的に情報を発信し、24時間での電話対応や施設イベント等の参加をうながしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは、介護保険の他サービス利用は実費になってしまいますので、お金のかからない地域ボランティアさんによるイベント等に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と同じ時間を共有し過ごせるよう、配慮しレク、買い物等を通じ交流を持っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の状況の情報交換を電話や手紙を通じて行っています。月に一度「和み通信」で近況報告もあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状等の季節の交流を絶やさず行っています。また、電話でのやりとりの支援やイベントの参加を促しています。	友人や家族の来訪が多い。友人とお花見や家族とは通院の他、馴染みの美容院、墓参り、外食に出かけている。利用者が趣味や嗜好を継続して生活できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや毎日の体操等交流しやすい空間を作る様、努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な距離であれば元利用者のもとへ伺い退去後の様子を確認し必要に応じてご家族様の相談も受付、アフターサービスも行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の意見をよく聞き、見逃さずにくみとり、本人の希望を出来るかぎり実践させる様、全職員で取り組みます。	日々のコミュニケーションの中で、利用者の表情や行動から希望や意向を把握するように努めている。職員は利用者一人ひとりの生活歴を尊重、共有し、思いを大切にしたい見守り、声かけに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様及びご家族様から情報を集め全職員に周知させています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートの活用や引継ぎを重視し情報の共有に努めています。ケアマネや医師との情報交換に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身辺状況に変化があった場合、即時にご家族様、医師、ケアマネと連携をとり介護計画の見直しを図っています。	日々のミーティングで利用者の身辺状況を話し合い、家族、医師、看護師、ケアマネの意見を基に介護計画を作成している。変化があれば医師と連携して見直しを行い、現状に即した計画にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌を作成し全職員が目を通しています。また記入することにより利用者様の変化の過程も解りやすくなっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物の同行、外出への付き添いなど、出来る限りの生活支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントの参加を通じ地域資源の把握をし、生活を豊かにする努力をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療情報提供書等を通じて各々の診療状況を十分に理解し適切な医療を受けれるようにしている。又ご家族などの要望によりご指定の病院があれば必要に応じて指定病院の受診を受けれるよう対応しています。	月2回の内科受診があり、希望により歯科の受診も可能である。看護師による検査や薬局による服薬指導も受けている。外部受診は原則家族対応だが困難な場合は職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設では2人の看護資格者を従事しており、常に気づいた点を相談・報告出来るようシフト配備しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	伊奈病院関係者・上尾中央総合病院関係者とかかりつけ医師を通して普段から連携をとるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメントを通じ本人や家族の希望を把握しています。また、ケアプラン作成時での再確認を行っています。	家族には、入居時に事業所としての指針を説明している。医療行為の発生、食事が摂取困難になった場合には医師の指示を仰ぎ、家族と共に話し合い、利用者の支援方針を決める。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時及び事故時の連絡方法を全職員に伝達し、毎月のミーティング時に確認や見直しを行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防局の方に来ていただき避難訓練をご指導いただいております。	年2回、消防署立ち合いの下、近隣にも声かけをして、避難訓練を行っている。平屋造りで居室から玄関、非常口までの距離が短く、屋外の見通しが良いので避難しやすい環境である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に対応できる知識を得るため職員の勉強会を行っています。また、言葉遣いや対応方法についても職員同士、注意しあえる環境作りを心掛けています。	トイレ誘導や入浴は羞恥心に配慮して同性介助で行っている。利用者一人ひとりを尊重した声かけに努めている。職員は利用者の情報を共有し、研修を行い、接遇には互いに気をつけ合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様への定期的な会話や問いかけを実践し、自然に本人の希望を理解出来るように取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の買い物や外出の希望に対し、スタッフが同伴し、外出した際には日常生活のリズムを崩さない様、心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様によっては、ご本人様の、その日の衣類を決めて頂いております。また、行きつけの美容室等にもお連れしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けの協力をして頂いております。メニューの発表をして食事に楽しみが持てるようにしています。	食事の前には嚥下体操を行い、メニューの説明をしている。朝食は一人ひとりの起床時間に合わせて個別対応にしている。料理レクでは、流しそうめんや焼き芋で季節感を味わって貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士管理の者に、バランスのとれた食事を提供してもらっています。また病気等による食事量の増減にも気を遣い提供し、毎回の食事量のチェックを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアはしっかり行い、清潔保持が保たれています。訪問歯科に定期的に来ていただき口腔内の健康も重視しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄パターンを理解し時間による声掛け等、排泄リズムを変えない様、心掛けています。またトイレ誘導も行っています。	排泄チェック表を基に個々のパターンを把握してトイレ誘導を行っている。夜間は2時間ごとに見回り、自立に向けた支援をしている。排便困難な場合は医師の指示による体調管理が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な飲食物や腸の働きを活発にする飲食物を取り入れたり、マッサージ等を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状、入浴のタイミングは希望に添え対応しているが、入浴したくない方が多く、強要はせず促すような呼びかけを行っている。	週に2, 3回、同性介助により入浴してもらっている。入浴拒否の利用者には強要せずに、入浴したくなるような声かけの工夫をしている。菖蒲湯や柚子湯等で季節感を感じてもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコンによる室温調整や定期的なりネン交換を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬について、名前日付をしっかりと確認後に服薬して頂いています。また、服薬一覧を作成し、病歴等もわかるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の能力に応じ、洗濯物、郵便物の回収、食事の片付け等、ハリの出る生活を送れる様、支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	物品の買い出しや、散歩等、本人の希望を聴き、添える様支援している。スタッフの付き添いにより安全も確保しています。	体調と天候を見ながら車椅子の方も日常的に散歩を行っている。全員で初詣や職員手作りのお弁当持参でお花見に出かけている。個別に職員と洋服やお菓子を買いに外出する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談させていただき、各利用者様の買い物等で使える金額を設定するなどの形で支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の手紙等、本人の希望による手紙出しの支援を行っています。本人私物の携帯電話の使い方なども職員が支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに大型テレビやソファを配置し、共有部に季節感の出る飾り等を施し、季節を楽しめる工夫をしている。	リビングは天井が吹き抜けで開放感がある。居室は広いリビングに面しているので移動や誘導がスムーズである。ミネラルウォーターのサーバーが設置され服薬や入浴後の水分補給に使用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	四人掛けソファの配置や、個人用の椅子を用意しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様、個々にクローゼットを用意させていただき、馴染みのある寝具や家具等の持ち込みもして頂く様、ご家族様に相談しています。	エアコン、クローゼット、ロールスクリーンカーテンが備品である。掃き出し窓は明るく開放感がある。使い慣れた家具や品物を持ち込んでもらい、安全に居心地良く生活できるように支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの配置や車いすの移動がスムーズに出来る様、家具の配置を考え見守りしやすい広い空間をとっています。		